



私たちは、地域に開かれた病院として
皆様の医療、福祉、健康増進に努めます。

広報誌発刊のご挨拶



こんにちは。
院長の寄井で
す。当院では
最良の医療を
提供すること
を使命と考
え、患者さま

の立場を最大限に尊重した医療
を目指し日々努力を重ねており
ます。最近の日本の動向をみて
いますと雪印や日本ハムのように
に、人にわからなければ何をし
てもいい」といった風潮が見受
けられます。医療に置き換えて
みると、患者さまに分からな
ければ何をしてもいい」といった
感じになります。これでは、患
者さまの不利益になりますし、
医療における信頼関係が大きく
損なわれてしまいます。やはり、
患者さまと医療を行う側はあく
まで対等の土台に立たなければ
本心に質の良い医療というのは
できあがってこないと私たちは

考えています。そこで、眼科に
関して患者さまに少しでもより
分かりやすく理解していただき、
病気を治していくという行為を
医療スタッフと患者さまとの共
同作業で行うために、また、待
ち時間を少しでも快適に過ごし
ていただければと思います今年から
広報誌『瞳すこやか』を発刊す
る事にいたしました。この広報
誌にて少しでも当院の医療サー
ビス内容、最新の医療情報や目
の病気のことなどを掲載してい
く予定です。是非お目通しの
程、お願いいたします。

私たちの目標

私たち医療従事者全員が、患者さ
ま全員に対し同等の医療サービ
スを提供できるように、また、より
よい医療を提供するためには当院
の医療従事者の質を高める必要が
あり、そのためには同じ行動目標
が必要と考え、下のパネルに記載
するような目標をうち立てまし
た。何かご不満な点や気がつか
れたことなどございましたら当ス

【病院の行動理念】

1. 私達は、患者様の健康の維持に全力を注ぎます。
2. 私達は、思いやりの心をもち笑顔と挨拶を心掛けます。
3. 私達は、科学的に根拠のある最新の医療を提供します。
4. 私達は、眼に関する全てのことを取り扱う眼の総合病院を確立します。

タッフにご遠慮なくお申し出く
ださい。また、待合室にはご意
見箱を設置しておりますので、
ドシドシご感想をお入れくださ
い。病院をよりよい方向に、ま
た、開かれた病院に改善してい
くための参考にさせていただきます
ればと思います。

癒し系ガーデン



Flower bed



2002・07・12

私たちは、患者さまが少しでもリラクセスした気分になって頂くために、来院されたら瞳の中に美しく色鮮やかに咲いた花の情景が飛び込んでくるように小さいながらも第一駐車場横にガーデンを設置しました。ラベンダーやムラサキシキブの紫、アメリカンブルーとブルーサルビアの青、千日草の白、そしてねむの木。ピンクがきつと患者さまの心を和ませてくれることと思います。



目の不思議

涙は塩からい？

みなさんもご存知のとおり涙のほとんどは水分で約80%を占めています。水分の他には、ナトリウムやカリウムなどの電解質やタンパク質や抗菌作用をもつ成分なども含まれています。それでは涙を塩からくしている成分は何でしょうか。その答えはナトリウムで、これが含まれている事で涙を舐めた時に「塩からい」と感じるわけです。そしてその「塩からい」という所にちよつとした秘密があります。流れ出る涙の味はいつも同じというわけではなく、流す理由によりその味が微妙に違うようです。怒っている時や悔しい時に流した時の涙の味はナトリウムが多く含まれるため塩からくなり、逆に悲しい時や嬉しい時に流した涙の味は怒っている時、悔しい時に比べ塩からくないそうです。見た目にはその違いがわかりませんが、流した時の気持ちによって涙の味が違うなんて不思議ですね。

『散瞳』 検査ってな～に？



私ことドクターYがお答えします。瞳孔（ひとみ）は通常3mm程度の大きさしかなく眼底をより詳しく周辺部まで検査するためには、目薬をいれて瞳を大きくする（7～8mm）必要があります。瞳孔がもとの大きさに戻るのは約3～4時間ぐらいで戻ります。その間は、非常に見えにくく、光もまぶしく感じられますので散瞳検査をする際にはお車でのご来院はお避けください。散瞳剤の副作用はありません。まれに、アレルギーをもたれている方は、目の周りが赤くなったりかゆくなったりすることがありますが、その際には医師にお申し出ください。

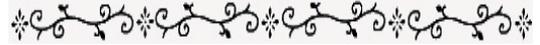




糖尿病網膜症って怖いのか？



糖尿病眼合併症の巻



近年、患者数の増加が著しい病気の代表に、糖尿病があります。日本では患者数は約 690 万人、予備軍を含めると、約 1,370 万人になります。糖尿病は合併症（余病）が怖い病気で、合併症はとくに腎臓や神経、そして眼に現れることが多く、これらは三大合併症といわれます。

眼の合併症は、糖尿病と診断されたときから定期的な眼科の検査を受け、糖尿病と眼科の適切な治療を続けていけば、確実に防げます。しかし、実際には糖尿病を放置している人が少なくなく、毎年 3,000 人以上の方が、糖尿病の合併症で視力を失い、成人の失明原因のトップとなっています。



自覚症状はあるのか？



初期の頃は自覚症状はほとんどありません。「増殖網膜症」が進み新生血管から出血が起こるようになると、自覚症状が現れます。出血が起こると、目の前で蚊が飛んでいるような感じがしたり、大量の出血の場合には、目の前が真っ赤になったと感じます。また、視野が欠けていると感じることがあります。

ただし、人によっては片目だけの視力障害の場合には気づかないこともあります。網膜症と診断されたことがある人は、ときどき片目ずつ手で隠すなどして、視力に異常がないか自分で確認することもとても大切です。



糖尿病っていわれたら？



糖尿病網膜症は、かなり進行するまで自覚症状が見られない病気です。糖尿病とわかったら直ちに眼科で診てもらうことが最も重要です。眼底検査をすると、網膜症になる前にも、網膜の血液の流れ方に少しでも異常があればわかります。一般に、糖尿病を患っている期間が長いほど、網膜症を合併する可能性も高くなるといわれます。糖尿病と診断されたら、視力に変化がなかったり眼に異常を感じなくても、1年に一度くらいは眼科で診てもらいましょう。



